寛永諸家譜

平氏十九冊之内

良文流

内閣文庫
番號 和 20199
冊數 186( 72 )
函號 柳 76 1

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

中根　戸田
板橋　永井
長井　豊嶋
永尾　高山
三田　酒井

寛永諸家系譜伝

平氏

良文流

中根

正行

平義清　生國参河

清廉君ヲ仕ヘテ中老職ヲ勤ム

浅草文庫

正信

新左衛門尉　生國同名
廣忠卿　とよび
東照大權現　に仕へ奉る中
老臣と称せ　られ須賀の城　にあり河
土郡　横須賀の城　にあり河
中根日野　天野　金次郎　河土十郎
正信　と　嫡子忠元　松平三七郎

原田義左衛門　加勝　として
武田　小屋　加城　小あり
永禄十二年　小病死

忠元

平左衛門尉
初め中務　と称　國　小澤城　と
称　河　太元　詢命　と称

中務丞屋敷ニ小溝堀下の制法
を行なさるゝ為加乃城ふとく
死して

正重

織七郎　生国三河
ちゝは信康ニ仕へまつる
後ハ
大権現ニ仕へまつる

慶長三年伏見乃城番ふあらく
死して歳四十二　法名清月

正成

織七郎　生未詳
後出仕下ハ叙ハ大隅守に組
慶長四年
名濃院殿ニ渇ハさくまつる
同十九年大坂陣ニ従ハ

元和元年 夏大坂陣ヲ底ヲ
かつぬりく功あり 以河内国功と感じ
給ふく千石の地とくしたまふ
同二年より
将軍家ヲ仕へ奉り

正宗

給三郎 生国武蔵
名濃院殿ヲ仕へ奉る

寛永二年 名命をうけ奉り
後河大納言忠長卿ヲ仕へ奉る
将軍家ヲ仕へ奉り
同十七年ヲ死ス 歳五十 法名
法興

正宗

給三郎 生国同所
将軍家ヲ仕へ奉る

正次

土岐氏　生国同所

享年十九歳より

石清水殿御つとめ　大坂

御陣より御供

元和二年忠長卿御つとめ

将軍家御つとめ

寛永十五年御病死

正勝

生年　御七郎　生国武蔵

元和三年

将軍家御つとめ

同七年より御番を御つとめ

寛永十年御病死

家の紋　叢菊の図

国立公文書館
National Archives of Japan

中根

正後

仁左衛門　生國參河

廣世郷　[illegible]

正友

仁左衛門　生國同[illegible]

大隅殿とよび
名濃院殿てい仕へ奉る

正成

義助　生國壹州
名濃院殿てい仕へ奉る
元和八年十二月二十日てい病死
歳四十八

正次

仁蔵　生國相模
名濃院殿てい仕へ奉る

家の紋叢菊の圖

国立公文書館
National Archives of Japan

中根

忠重（ただしげ）

右四郎

大橋現[illegible]

貞重（さだしげ）

治六郎

国立公文書館
National Archives of Japan

大指現ものすべ
石清院殿てしたがへてまつれ

貞次

七番　生國相模
石清院殿てしたがへてまつる後
将軍家てしたがへたてまつる枝末
ものとなり立百二十五條の地代
作也

家の紋　叢海の圏

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan

中根

生國參河

正利

七郎兵衛

大猷様へ御ものかたりまゐらせ候書を
たまはり今てゝ[illegible]
天正十二年六月二十五日てゝ病死
法名全[illegible]

正宣

[illegible]　生國同所

大檀那[illegible]

寿長九年十月[illegible]病死[illegible]

四十八　法名宗春

正勝

[illegible]　生國東[illegible]

寿永十年正勝十一歲[illegible]

名德院殿[illegible]

[illegible]　[illegible]命[illegible]

将軍家[illegible]

家の紋　義[illegible]の丸

国立公文書館
National Archives of Japan

中根

正右

年令史　生國參河

享年長四年九月九日ヨリ死ス

七十九　法名道心

正後

九ゝ若果　生國同所

大檜現て作へしてまつわ　鈎命に

よりて鉄炮五十挺を新わ大坂表

御陣て供奉

寛永十一年七月十日て死す

歳七十五　法名久安

正次

長義　生國同所

おハ松平氏なりしとも

大檜現の当命て十ゝ万氏

と冐三ゝ中根と称し

寛永八年三月ゝわ

大檜現をゝび

台徳院殿て作へしてまつわ之後

将軍家てつゝまつる

正勝

八郎左衛門　生國同所

寛永三年　六月廿九日

名濃院殿ヲ拝領仕候

正連

九郎兵衛尉　生國同所

寛永七年

名濃院殿ヲ拝領仕候

将軍家ヲ仕候

正信

六郎兵衛

寛永十一年

将軍家ヲ拝領仕候

家ノ紋九ノ内ヨ義菊

国立公文書館
National Archives of Japan

安信

庄田

三左衛門　生国丹波

赤井太郎五郎ちゝ

木村左馬允母

寛永十二年十月御免ありて

大橋現と称し　たゝまゝ川数

同六年　勾命ニテ白河國
伊達郡ノ城番ヲ勤ル
大坂表ノ御陣ニテ　台命ニ
より御旗本ヲ勤仕ル
寛永六巳二月廿二日ニ八十九ニテ
死ス

安照

小兵衛　生國駿河

安勝

三太夫　生國駿河

慶長十年九月伏見ニテ
大権現ヲ拝シ奉リ西川秋河
十六歳
同十二年武州江戸ニ
台徳院殿ヲ拝シ奉リ
表度ノ御陣ニ伊達ニ

寛永九年

将軍家光様ゟ

御下賜 根菊

忠康

信濃守

板橋

[illegible]氏なり曾祖父信濃守
忠康小弟氏忠[illegible]武別
板橋[illegible]
と号す

小象氏也

## 忠改

氏政

天正十八年小田原没落のち

大指現

御陣

## 改重

和睦

凱還の後病死

## 改那

ちゝ

大指現

名濃院殿

寛永四年病死

ちゝ

元和七年

名濃院殿

幕の紋 鶴丸

国立公文書館
National Archives of Japan

永井

右成

立右衛門　生國甲斐

武田信玄同勝頼ヲ

右匠

又立郎　生國同所

信玄ならび勝頼ならびに甲州没落のち

大猷院様御代甲斐国の内より分かち今ハ小幡小四郎奥州白河藩ハ仕候

寛永五辰年

名古屋殿ハ尾張国

沖陣ハ大坂表沖陣ハ仕候

元和二年ハ歳四十八

名次

名古屋殿　尾張国

寛永十年

名古屋殿ハ和歌山藩ハ紀州和歌山城主ハ大坂表沖陣ハ仕候

元和八年大番の組頭となる
寛永元年より
将軍家へ仕へ奉る
同十九年三月十二日 御命ゝ
ゝ仕る番をつとめ能地
とくとへたまはるべし 与力
同心をあつかる

右勝

七郎右衛門 生國武蔵
寛永九年
将軍家へ仕へ奉る
同十五年より仕へ奉る

右忠

金十郎 生國同所
寛永十七年より
将軍家へ仕へ奉る 御小姓

国立公文書館
National Archives of Japan

永井

先祖武列永井の人なり信盛

父子ともに列よりて

信盛

孫太郎　甲斐国三河

廣也郷にて生まれ

元亀三年三月十五日死

八十三歳

安盧

若狭国図

大檜現ゝ行ゝ給へゝ給へまつれ

信濃国筑摩の内ゝ安倍の

奥津ゝ野村に来料にのらせ給ふ

久世川根にのらせ給ふ山寺

同の後花沢寺別合給れ上洛

訪原氏ヶ所ゝ永和紙様へ

しむ

大檜現安部大義ゝ命しゝ去

永和を攻さしむ安盧は大義が軍

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ八十騎と安盧ゝ

相添大義が勝ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

因幡国原の永和をせめゝむ河ゝ

安盧さる立ゝゝ首級紙様をゝ

永和紙せめ義と時敵田土人と

討捨数太刀もらさき安部摂津守
うれを初め
長篠沙陣にて終をして言伝
あり
長久手沙陣にて終を安盧一番ふ
池田左太郎が首を討取二番に
今村九郎兵衛を三番とし
永井太郎近池田勝入が首をとる迄
一番とられ
関東沙入国の河
大樹現の命を初て
名徳院殿にて終へ
不敵激なる故に
後上杉景勝にて
愛長五年景勝政宗と合戦
河野部紙後も
齋伊豆守及び安盧号を大将
して三千人を相添奥列

福島の城を守らしむ政宗これを
ゆゑて自分五百騎を率て福島
の城をせめ玉河左の口人名氏合せ
軍兵ともを引卒して城外に出
戦て敵味方入乱て
かゝる政宗いまだ勝味なれむ
多田百餘人討死して河内安房敵の
中へ独入政宗が家ゝ馬の首式
きゝ玉後軍兵をあつめ城中て

引政宗も兵をひきてかへられたり
秀康卿の陣てよりて越前小
兵法を秀康卿ゝ覚してれち入道
して京都て住をまる大坂
冬の陣の河内沙汰を慕ひゆく
志れしも和議てよりく
又京都てかへれ
翌年夏の陣小幕下よ語し
亡養せゆへて 仲宥先を

加てつ
石徳院殿てけへてまつわれ鑓
をもりて仕せ付まをこ後ふか
十騎歩卒ゑ十人へを新しものら
出張をもりとれれ
寛永十一年十一月廿ニ日てて
死を九十八歳

正盧

弥七郎　生を國張河
卒生病ちなををゆへけへこ
まつをを
元和二年六月廿ニ日てて死を
ゆ〻三十四

某

清蓮寺早世

盛安（もりやす）

徳川家康　生國尾州

寛永三年十月廿六日

將軍家ヲ謁（えつ）シ奉リ御

同十年より御參勤をつとむ

家ノ紋　九ノ内ノ遠雪（ちがいのゆき）

国立公文書館
National Archives of Japan

長井

正勝

孫右衛門　生國近江

享年六十六歳ニて死ス　法名長隆院殿

正次

勝右衛門　生國同前

元和元年七月より
大猷院様おとしび
名遠院殿へ仕へ奉り
四十六歳にして死す　法名梅岳浄意

正成

左右衛門　七郎摂津
寛永十七年三月二十一日より大番
を仕へ

家の紋　十六のしゃう

国立公文書館
National Archives of Japan

長井

●正實

世子前田

世子武義

武田信玄勝頼

實久

右兵衛尉　世國同家

天正十八年小田原沙陣乃ち
大檜現て清てまつる
石護屋沙陣て供奉
石清院殿て清てまつれ

盛實

清左史　生國上野
受長也ゑ関ケ原沙陣て
大檜現て清てまつる

同十二年歳二十五ゑ死去

正實

清左史　生國駿河
大檜現乃嚴命を以て父が遺跡二分
乃一を分とのち
將軍家て清てまつる松平
大隅守て屬し沙汰を清てあ
屬仕地をくてまつれ

寛永十年より材木奉行を勤

家の紋 鞠(まり)二穂(ほ)打違(うちちがへ)

豊嶋

●重宗

民部少輔　生國武蔵

小隊家ニテ

秀有

市兵衛　生國同所

信玄勝頼ヲ攻滅シテ翌年
天正十年勝頼滅亡
大猷院ヲ歳ハ六十七ニ葬ル　法名宝晴

忠次
姓名　生國甲斐
天正十九年

大猷院関東御入國ノ時ハ
ハヽまつれる後
名源院殿ヲ
将軍家ヲ御内室

勝重
生國同家
大猷院ヲ葬ル十八年
享年十八年

名淳院殿
将軍家
[illegible]

勝丞

[illegible]　生國武蔵
寛永十年
将軍家
同十七年
[illegible]

丑松

[illegible]　生國[illegible]
寛永四年
名淳院殿
将軍家
[illegible]

暖次

小十郎　生國同所
将軍家
[illegible]

# 家乃紋 鳩酸草（ぐみ）

国立公文書館
National Archives of Japan

永尾

正景

内膳正　生國上野

小條氏改

寛永十年九月二十四日ニ死ス

歳七十二　法名英昭

## 景継

薩摩守　生國相模

初め小條氏を名乗り仕へ故あて去

大檜現在列演松にて御門を渡り小條

氏を名乗り河にて弥左衛門

と名乗り後日相模守殿より

賜ると遂に弥左衛門

と名乗り

弥左衛門と

さしたるの事と

大檜現にて云上にて討死

せし後小田原とすび奥列石

護屋関原等の陣ともいつれも供

後に父西京も又まゐりてまつわ

相去りけるまゝ

寛長十九年七月二十四日に死と

歳四十七

景信

[illegible]　生國武蔵

元和八年より

[illegible]

家の役　左巴

高山

其先八相州土肥の住人と伝いふ

利家

将監　生國安藝

盧聰

主水正　従五位下　生国備後

は小早川隆景下ハ
戦場の先鋒ハ
岡ケ原陣の
ハしき藤堂和泉本多伯耆
とハ
大将現と
西海ハ
鉄炮百挺
有ハ

大将現を感ぜ
ず力十挺鉄炮同
上二百人の技拙と
ハ

## 豊勝

泉国山城

元和九年十月

将軍家と

寛永元年二月より仲蕃と勤

利永

平蕃　生國越河

寛永二年十二月

将軍家と参ゆ

同十四年八月より仲蕃と勤

家乃紋　左巴

三田

相馬小次郎が苗裔なり

●系

英清守　生國武蔵

系

參河守　生國同所

## 綱勝

後河内　生國同所

小泉清興の氏照下野

小山の城を守れ

天正十年　新介ふとしく京虎

京勝と相義と小田原より綱勝

とけるとも援兵とくく京虎を

ふせ綱勝新介を河内守二歳

## 守綱

右兵衛　生國同所

父綱勝討死の後氏照守綱をつ

れ大石治部と小山の城を

ゆるす

小田原没落のち

大稲現ていへ入まもる筑紫

沙陣小俣

慶長十年より
白川院殿にまつらせ給
岡ヶ原御陣下に伺候
元和元年牧野内匠頭組小屋
大坂御陣に伺候
寛永元年より
将軍家にまつらせ給

守長

出羽国同郡
元和六年より
白川院殿へまつらせ給
将軍家にまつらせ給

守次

市郎右衛門 出羽国同郡
寛永七年より
将軍家にまつらせ給

# 御乃級

## 駿馬之頭の左巴

国立公文書館
National Archives of Japan

酒井

土肥乃流れ

●實秀

生國を江　萬馬を居住す

永禄年中江列藤乃波乃城を

なれ藤乃波乃城　埋没為のゝき

討死

寶治

北条　生國相模

遠の波蔵塚の松浦人より後河

てゝわゝく都を忘れ民をを

酒井小弥太

武田信玄てゝ信濃文二遍あり

天正十年甲州役蔵の松

大檜現てゝくまつる

寛長十年七十三小しく病死

法名道祝

昌治

後義　生國後河

大檜現てゝくまつる是より

こゝゝ

名波院殿

將軍都てゝ重教　法名治春

実重

御母　生国同前

庶子たりといへとも家督をつぎ

大権現及

台徳院殿

將軍家につかへたてまつる

寛永二年病死とし五十歳

了性

実次

御母　生国武蔵

元和九年より

將軍家につかへたてまつる

実正

強蔵　生国同前

將軍家につかへたてまつる

御門役

丸門沢浮　元槍扇

国立公文書館
National Archives of Japan

国立公文書館
National Archives of Japan